

場所 兵庫県加西市

面積 3.71ha

活動目的 「自然と共生する工場」をテーマに、里地・里山由来の自然を従来の状態に戻し、緑化由来の植生の生物多様性を高めていくこと、活動を通して従業員等の生物多様性に関する関心を高めていくことを目的に活動している。



サイト概要 関西本社工場敷地内の緑地。緑化由来の樹林1.7haに加えて、里山由来の樹林や草原、休耕地、竹林などが分布し、全体で約3.7haの緑地となっている。緑化由来の樹林には、シラカシなどからなる常緑広葉樹林と、クヌギなどからなる落葉広葉樹林があり、一部は間伐により疎林状に管理している。敷地の南端にある休耕地では毎年草刈りを継続しており、カワラナデシコやカヤネズミが見られる草原や、ハンノキなどが生育する湿地となっている。2023年度に実施した自然環境調査では、植物215種、哺乳類8種、鳥類16種、両生・爬虫類6種、昆虫類118種などが確認され、兵庫県レッドデータブックに掲載されている複数の絶滅危惧種も確認された。

土地利用の変遷

里山や水田が広がっていた場所に、1985年に旧三洋電機の工場が竣工し周囲の土地も整備を進め、造成法面に広葉樹が植林され、管理が行われてきた。1983年から1991年に掛け順次南側の休耕地を買い受け、それ以降は同様の管理が継続されている。2020年にプライムプラネットエナジー&ソリューションズ株式会社の所有となった。

サイト周辺の環境

サイトの南北には主に水田が広がっている。西側には2つのため池と民家があり、東側には工場敷地や寺院などがある。サイトに隣接する樹林は少ないが、周辺には100～200m程度の間隔で樹林が点在する状況となっており、工場敷地の樹林はその一部となっている。

アピールポイント

全体の面積は3.9haと決して大きくないが、タイプの異なる樹林、草原、湿地など多様なハビタットが存在し、里山林に生息するアカシジミをはじめとして、各ハビタットに特有の動植物が見られる。キツネ、タヌキ、カヤネズミなど生態系の上位から下位に位置する哺乳類も確認されており、地域の生物多様性保全に貢献していると考えられる。複数の希少種（植物1種、両生類1種、鳥類1種など）も確認されている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

工場敷地の一部に里地・里山由来の樹林や草原などが分布し、定期的な管理によって維持されている。また、緑化由来の植生に里地・里山特有の動植物が生息・生育している。

【主な植生】

里山由来の樹林：アベマキ群落

草原：チガヤ群落、オギ群落、ネザサ群落など

【確認された主な動植物など】

哺乳類：キツネ、タヌキ、イタチ、コウベモグラ、カヤネズミなど

鳥類：ヒヨドリ、キビタキ、アオジ、ハシブトガラスなど

爬虫類・両生類：ニホンカナヘビ、ニホンマムシ、トノサマガエル、ヌマガエル、ニホンアマガエル

昆虫類：ハグロトンボ、マユタテアカネ、アカシジミ、ムラサキシジミ、アオスジアゲハ、スミナガシ、モンキチョウ、ホシホウジャク、オオカマキリ、コアオハナムグリ、オオスズメバチなど

植物（樹木）：アベマキ、ナラガシワ、コナラ、クリ、ヤマザクラ、ヤマハゼ、ヤマコウバシ、イボタノキ、タラノキなど

植物（つる）：アケビ、ミツバアケビ、アオツツラフジなど

植物（草本）：ススキ、チガヤ、ツクシハギ、マルバハギ、ミヤコグサ、ヒヨドリバナ、コナスビ、ツボクサ、ノコンギク、ナガバジャノヒゲ、ベニシダなど

このほか、兵庫県レッドデータブックに掲載されている複数の絶滅危惧種も確認されている。



写真の説明：里山林を指標するアカシジミ



写真の説明：草原生植物が豊富な草原

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトでは、水田（棚田）、クヌギコナラ二次林などで構成されたモザイク状の土地利用が残され、典型的な里地里山の環境が見られる。こうした里地里山の環境に特徴的な希少な動植物種が確認されている。

【確認された希少種】

本サイト内では、兵庫県版レッドデータブックに掲載された希少種として鳥類4種、両生類2種、植物1種が確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

<活動内容>

活動内容を以下3つに分け保全活動を行う。

①日常管理作業の調整

工場敷地には多様なハビタットが存在し、各ハビタットの特性に応じて様々な動植物が生息・生育している為、日常的に実施している緑地の管理方法や実施時期を見直す。具体的には、樹林内の下刈りの停止、植物の特徴に合わせた刈り取り頻度の低減または増加を実施する。

②植生を豊かにする管理

工場が位置する加西市では、耕作地・ため池の土手の草原、ため池、湿原などの里地環境が貴重な生態系として選定されており（加西市貴重な生態系48）希少な動植物の生息・生育の場となっている。具体的には、在来植物の導入（林床部分への低木導入）、希少動植物の生息・生育場所維持の為に環境整備（湿地環境の復元、希少種生息エリアの立入りの制限）を実施する。

③樹林・外来種管理

樹林内枯死木等の管理作業と併せて、周辺の過密な樹木の間伐を実施し、次世代の林冠木や低木の定着を促す。また外来植物の繁茂、敷地周辺への拡散を防ぐ為に侵略的な外来植物（兵庫県版ブラックリスト掲載種）を中心に駆除を行う。

<実施体制、計画の点検・見直し>

弊社の従業員が中心となってこれらの活動を実施し、適宜専門家と連携する。本活動計画は毎年点検を行う。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

鳥類、両生類、昆虫類、植物を対象とする。

【モニタリング場所】

- ① 希少種の生息・生育状況の確認：希少種が確認できた主に3地点
- ② 生態系指標としてのチョウ類調査：工場周辺、駐車場南側など
- ③ 取組の効果検証のための調査：適時活動した場所

【モニタリング手法】

- ① 希少種の生息・生育状況の確認：目視、写真撮影後専門家に同定依頼
- ② 生態系指標としてのチョウ類調査：確認されたチョウの種名と個体数を記録
- ③ 取組の効果検証のための調査：植生調査、定着率の記録

【モニタリングの実施時期及び頻度】

- ・基本的には2年に1度の頻度で実施。
- ・モニタリング実施年の5月～9月（一部鳥類は12月）に実施。

【モニタリング実施体制】

弊社の従業員が中心となってこれらの活動を実施し、従業員参加型モニタリングも実施する。適宜専門家と連携する。